**7月19日　株式会社ＡＢＥＪＡ　代表取締役社長ＣＥＯ　岡田 陽介 氏**

**問１　学んだこと、印象に残った言葉、講師へのメッセージ**

IoTやBig Data、AIなど最近よく耳にするようになったものの、実際には私たちの暮らしにどうかかわってくるのかがわからない事柄について、具合例とともに説明していただいたのでわかりやすかったです。人工知能（AI）が人間よりも有能になってきているという話は、未来の更なる発達のことを考えると怖い気もしますが、世の中の様々な部分をより良いものにするために活用していけば可能性は無限大であるということが分かり、使い方や倫理も同時に考え、発達させていくことが必要であると感じました。技術と聞くと理系で自分には関係がないと思いがちですが、ビジネスとしてとらえると、経営面でもできること、進めていけることがあると今回分かったので、畑が違うと考えずに様々なことを学んでいきたいです。（経営学部・会計、情報学科・1年）

講義の前半で産業革命や各産業の実態などのお話を伺って、自分が何も知らないということを思い知らされました。今日聞いた話を知っているのと知らないのでは自分のこれからがすごく変わってくると思います。一番印象に残ったと同時に、言われてみて本当にそうだなと納得したのが、“行動すればよい点はたくさんあるのに、実際に行動する人はとても少ない”ということです。これは普段の生活でも私自身感じていて、「やろう」という気持ちを持つことができても、実際に行動することはとても難しいと思います。その難しさを乗り越えてこうどうすることで、未来を変えることができるということを今日改めて感じました。（経営学部・会計、情報学科・1年）

今日の講義で特に重要だと感じたことは「経営するならいろいろな分野を勉強して、いろいろなことを知っていなければならない」ということです。その時に、自分は数学があまり得意ではないけれど、できるように努力しないといけないと焦りを感じました。経営するのに理系の勉強を多くしなくてはいけないということを改めて理解しました。また、岡田さんの「人生に正解はない」という言葉も深く印象に残りました。自分も同感で、正解というよりも自分の信じた方向に進んでいくのが自然な行動だし、正解を求めて経営はできないと思いました。（経営学部・国際経営学科・1年）

今回のお話は、とても現代的な話でとても興味深く聞くことができました。第4次産業革命によって、大きく世界が変わろうとしていることが、まさに今起きていると知れてよかったです。自分が何をやりたいのか、未だに分かっていないですが、現実に向き合って、未来を見つめることには、しっかりと力を注いでいきたいと思います。そして、自分が正しいと思える道を歩んでいけるよう頑張っていきたいと思います。（経済学部・国際経済学科・1年）

データのとてつもない量を見て、幼少期に見たSFの世界だな、と思った。これから溜まったデータを利用する時代がくるのだろうが、使い方を間違えば取り返しのつかない事態に陥るので、人類は気を付けていかなければならない。しかし、きっと開発・発明は人類のロマンであり、ワクワクするものなので、気を付けても何もならないのかもしてない。

岡田さんは技術の紹介のときに何度も何度も「ヤバい」と繰り返していたが、確かに「ヤバい」以外の何物でもないと感じた。囲碁、将棋、試験（勉強）だけでなく、ブロック崩しや医療分野でも人工知能が人間を超えているのなら、もう人間は働かなくていいのかも、と思った。これで過労の問題も解決するかもしれない。

経営学部　経営システム学科　1年

起きている社会の変化は誰がなんと言おうと進行しているから仕方がないとい言葉が印象に残った。やはり今の時代、変化に柔軟に対応できる人間こそが求められているのだなと思った。ウーバーが普及してきている今、あえてタクシー会社に入社し、今のウーバーを超えるビジネスプランに挑戦する、という考え方は自分にはなかった。確かに、挑戦しがいのある人生の選択だと思った。また、テクノプレナーという言葉については、自分は会計×経営者という将来の展望を持っていたので、共感できた。どちらかだけでは補いきれない部分を１＋１は２以上になる、という考え方で相乗効果を得られるはずだ。

経営学部　会計・情報学科　１年

“未来を予測することは難しい。今の現実に向き合うことは誰でもできる。現実を見つめないにもかかわらず信じ込むということが良くないことであり、現実を知った上で何かに挑戦するということはなんでも正しい。正しい答えは探すものではなく、正しい答えは作るものだ”という言葉がよかった。今後就職もしくは起業するうえで影響を受けると思う。人工知能の開発が進んでいく中で、それを上回るような事業を立ち上げたいと思うならば、現在圧倒的不利な業種への挑戦もあり、ということなので、考えていきたい。Technopreneurを目指して、大学在学中にできることをやっていきたいと思う。（経営・国際経営１年）

第四次産業革命や第三次人工知能ブームを話すとき、個人の感情や抵抗とは関係なしに必ず起こってしまうという話し方をしていたのが印象的でした。それこそ本当に岡田さんがおっしゃる「間違いなく世界は変わる、変わるのは誰が変えるかだけ」という言葉がぴったりだと思いました。今までの「誰も変える人がいないから自分がやる」という考え方とは違っていて、みんなが注目している分野の最先端を手がけようとするときはそういった心持ちになるのか、と思いました。Deep Learningの話もとても興味深かったです。とにかくデータつめこめば勝手に学習してスキルアップしていく、というのは本当に人間と同じようであり、むしろ勝手に記憶が消えたりせず保存容量の面でも人間より秀でていると言えると思い、反して人間に勝てない部分はどういったことがあるのかが気になりました。Deep Learningをプログラムした人はすごいなあと思いました。(経営学部・会計・情報学科1年)

**問２　今後のアクションに繋げていきたいこと**

AIは全く計算によって、物事を選択していると思っていたけれど、Deep Learningで勝手に学んでいくということを知ってとても驚きました。第4次産業革命が起きているということは、私たちの将来にとても関わっているので、しっかりとした情報を知って自分達はこれからどうすべきなのかを考えなければいけないと思いました。その中で職業革命が起こるという話がありました。これから就職活動をしていくにあたって、心構えが大切だと思います。岡田さんがおっしゃっていたように、衰退している仕事に就くのがダメなのではなく、衰退していることを知らないで仕事に就くのがいけないと思うので、もっといろんな社会の現状も捉えていかないといけないと思います。(経済学部　経済システム学科　1年)

AIと倫理観について、歴史を振り返ってみると、人間の判断の正しさを身につけることは難しいと思う。Technologist が倫理観を身につけても最終的に判断するのが政治家等の権力者だった。ではこの人たちをどう止めたらいいのかを考えることはとても重要だと思った。(経営学部　経営学科　夜間主　1年)

今日の講義を受けて、自分が第四次産業革命やディープラーニングについて詳しく知らないことに気が付いた。日々新聞などから情報収集することで時代に追いついていきたいと感じた。テクノプレナーになるには「プログラミング」を学ぶべきだと知った。そのようなものも少しずつ学んでいきたい。（経営学部・国際経営学科・１年）

**授業スタッフの感想**

今回の講演の中で、岡田さんは今まで少し耳にしていただけの多くの言葉を詳しく解説してくださって、この解説を聞いていると、自分が無関心だった事柄の重要性や自分自身今までどれだけ物事を考えず過ごしてきたのかを思い知った。授業後の対談でも、今公開されている情報だけでも、リンクさせて考えれば、様々なことが予想できるとおっしゃっていて、自分の思考の中ではそんなことまでは予測できない、考えつくわけがないと蓋をしてしまっていたことを気付かされた。また、そもそも知らなければどうしようもないので、自分の中の知識ももっと幅広く蓄積させていかなければいけないとも感じた。

　ただ、岡田さんはこれからの世の中あらゆるものがどんどんAIなどによって機械化されていくとおっしゃっていたけど、人間は機械、コンピュータに対して必要以上に完璧を求める傾向があると思うので、そんなに早くは機械化の波は来ないのではないかと思った。

今後、機械の発達によって人間にしかできない分野の仕事（芸術、お笑いなど）がより重要になっていくのでそれらを利用した事業を立ち上げたい。